

令和元年度 酒谷小学校学校評価

日南市4つの学ぶ力の育成

○他者から学ぶ力 ○自ら学ぶ力 ○自然から学ぶ力 ○社会から学ぶ力

1 学校の教育目標	「心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ 実践力のある子どもの育成」
2 めざす学校像	「児童一人一人が輝く学校」「美しく清潔で安心・安全な学校」「地域と連携して、生き生きと活動する楽しい学校」
3 めざす子ども像	「かんせいの豊かな子」「がまん強くがんばる子」「やさしい子」「きょうりょくする子」
4 めざす教師像	「自ら学び、資質・指導力の向上に努める教師」 「児童と地域を愛し、ともに磨きあう情熱ある教師」 「積極的な経営参加と一致協力して取り組む教師」

<学校経営ビジョン>

小規模校の特性を活かし、全職員が「チーム酒谷」として創意ある教育活動において「4つの学ぶ力の育成」にあたるとともに、保護者、地域との連携・協働を推進することで、学校の教育目標(心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ実践力のある子どもを育成する)の具現化と、地域に信頼される学校づくりに努める。

重 点 目標	具体的目標	自己評価結果	評 価	評議員 評 価
確かな学力の定着	○ 学習訓練の徹底と複式授業の充実	日常の指導や学習指導週間（年6回）で、年間を通じて統一した指導を行っている。研修を通して表現力育成と共に複式授業を充実させる取組も行った。教育機器を活用することで、楽しみながらも集中して学習に取り組ませ、少人数の強みを生かした授業を行っている。	4	
	○ 「分かった」「できた」と実感できる授業展開と指導法の工夫改善	学力向上のために授業はもちろん、朝の活動を充実させ、学習内容の定着と活用力を身に付ける取組を行っている。特に表現力育成のための工夫について研究した。各種学力テストを基に個人カルテを作成し、個に応じた指導に生かせるようにした。複式解消のためも音楽や体育の一斉指導や教頭による算数の授業、予備時数を使った授業時数の工夫等を行い、学力の向上を図っている。	3	
	○ 読書習慣の定着	読書年間 1000 冊を目標にして読書活動を推進しているが、人數の減少と読書の質の向上により、達成は難しい状況である。（2月4日現在 855 冊）学校では読書する姿はよく見られ、市の移動図書館「たいよう号」も積極的に活用し、50 冊表彰が6名、100 冊表彰は2名であった。読み聞かせボランティアや図書司書の努力も大きい。今後は、「質」の向上にも取り組んでいきたい。また、保護者アンケートの結果が低いことから、個人差も大きいがメディアとの関係があると考える。家庭への啓発も継続していく。	4	4
	○ 授業と連動した家庭学習の推進	基礎的・基本的な内容の定着や学力向上を図るために授業と連動させて宿題を出している。量と質を考え、計画的に課題を出している。さらに、個に応じた課題も出して定着を図っている。子ども個々の取組に差があり、アンケート結果から保護者と児童の意識が違っているので、今後も家庭学習の習慣付けを図る指導を行うとともに、家庭と連携した取組を行っていく。	3	
豊かな心を育む教育の充実	○ あいさつ運動の充実	虹色あいさつ運動や毎日のあいさつは元気で気持ちのよいあいさつができる。来校者や地域の方へも積極的にあいさつを行っている。あいさつは社会の基本なので、今後も「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できるように継続して指導を行っていく。	4	
	○ 道徳指導の充実	「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるよう授業の工夫や研修を行っている。子どもたちは学校生活に満足感をもっているので、今後も日常指導や学校行事と道徳の時間との関連指導を通して、学校生活を充実させていく。	4	4

令和元年度 酒谷小学校学校評価

	○ いじめ防止 基本方針の推進	いじめ・不登校等対策委員会(毎月実施)において、子どものアンケート結果について協議し、全職員で今後の対応を共通理解して指導に当たっている。また、主任児童委員とも連携を図り、情報を共有している。特別支援教育の研修も実施し、個に応じた指導や合理的配慮等、支援の在り方を全職員で考えている。	4	
健康・体力の向上と安全教育の充実	○ 基礎体力の向上	体育の時間や業前の時間、業間、昼休みに基礎体力を育成する活動を行っている。体力テストのA判定児童はいないが、D・E判定もないので、少しづつ向上しているようである。本年度は県の体力づくり奨励賞を受賞した。投げる力が全体的に低いので、楽しみながら技能が身に付く運動の工夫を行った。運動が日常化されて体力が向上するように努めたい。	3	
	○ 危険予測・回避能力の育成	避難訓練を年5回実施し、危険予測・回避能力の育成を図っている。風水害の避難訓練の引き渡し訓練、警察と連携した不審者対応訓練、消防署と連携した火災訓練、津波に対応した地震訓練、予告なしの避難訓練を実施した。5回とも昨年度とは違う方法で実施し、万一に備えて実際に即した訓練ができた。今後も様々な場面を設定して避難訓練を行い、危険予測・回避能力の育成を図りたい。	4	4
	○ 家庭、関係機関と連携した食育・健康教育・安全教育の充実	学校保健委員会や家庭教育学級において、家庭におけるメディアとの関わり方や食育指導を計画的に実施し、保護者・児童の意識を高めることができた。また、生活リズムチェックシートを活用し、健康に関する個に応じた指導や保護者に対しての支援ができた。関係機関等とも連携した指導も行っている。市の重点項目であるむし歯予防についてもしっかりと指導している。今後も家庭と連携した取組を継続していく。	3	
開かれた学校づくりの推進と家庭・地域との一層の連携	○ 学校の積極的な情報発信	学校通信や学級通信を発行したり、毎日ホームページを更新したりすることで、学校の様子や取組を保護者・地域へ発信した。また、「学校便り」や各種行事の案内文書を、自治会を通して地域に回覧してもらうことでも情報発信を行った。さらに、自治会に出席してお願いすることで多くの協力を得られた。地域コーディネーターの尽力や地域の方の協力を得て稻作活動等の活動を実施できている。	4	
	○ 地域行事への積極的な参加	「酒谷まつり」や「棚田まつり」、「酒谷神社祭り」等、地域の行事に積極的に参加するようにした。保護者からの協力も得るように連絡調整をした。ふるさとを大切に思う心を育てる活動を通して協働意識や郷土愛を高めることができた。今後も郷土への愛着が深まるような工夫をしていきたい。	4	4
	○ オープンスクール、授業参観日等の充実	年9回の参観授業を実施した。学校と家庭が協働し、子どもの育成ができるように内容の工夫をした。また、運動会の日程や内容を工夫したことで、地域の方の協力も得られた。稻作活動は、地域の方のたくさんの協力のおかげで実施できた。今後も地域と協力し、地域と共にある酒谷小の教育活動を充実させていきたい。	4	

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校評議員の総評

- 学校は少人数の中でもよくやっている。児童は楽しく元気に学校に通い、職員は課題について真摯に向き合い頑張っているのがよい。
- 読書の取組はよくやっているが、読書量の目標設定を見直す必要がある。酒谷中学校の図書室の本も活用できないか。
- 家庭教育の啓発と指導を今後考えていく必要がある。
- 山村留学の取組はできないか。少人数の強みを生かした学校アピールをして、小学校存続の取組を行っていく必要がある。